

2019年2月26日

断食声明

「末期の眼で観ているような——関西電力は老朽原発
(高浜①・②、美浜③)の延命工事の中止を！」

(若狭より) 中島哲演

- ・若狭の幼い子どもたちの頑はない姿・大人たちのつつましい日々の営み・美しい海などの風景が、あたかも「末期(まつご)の眼で観ている」ように愛おしく輝いて見えます。しかしその背後には、とくに関西大都市圏の大量の電力需要と繁栄のために、「原発マネー・フーズム、国内植民地化」(金力や強権によって批判の自由を封じ込める)の支配を受けて形成された、15基もの原発密集地帯(世界一)の現実があるのです。
- ・同じように関東首都圏のために形成された「東の原発銀座(10基)・福島」は、2011年3月11日に過酷な原発震災にみまわれました。「直後の避難者数は約47万人。避難先は全国47都道府県の1006市区町村。」8年後の避難者数が、「1月10日時点で5万2731人になった」と福井新聞は報じています。その「フクシマ」の一人一人が故郷を根こそぎ奪われ、どれほど深刻な被災の渦中にあるかを忘れ去り、風化させてはなりません。

・そのフクシマの犠牲者たち・被災者たちに心を寄せ、「第二のフクシマ」を決して繰り返させないために、そして「原発のない新しい福井」・日本を願って、私は以下の当面の重大な問題点の指摘と要望が受け入れられるように、本日より断食を始めます。

① 関西電力は老朽炉(高浜1・2号機、美浜3号機)の延命対策工事の中止を！

(→延命か廃炉かの再検討を！→廃炉の英断へ！)

- ・高浜①・②の対策工事は2160億円、美浜③のそれは1650億円。高浜①・②の廃止費用は各450億円、美浜③のそれは490億円。40年廃炉という従来の基準を覆し、対策工事を強行中。その進捗率からすれば、上記工事業費の？%しか使っていないはず。工期が9か月遅れて、再稼働は来年—再来年に！(2/5「福井」より)
- ・高浜町の年間歳入に占める原発関連収入の割合は55%、美浜町のそれは38%。ちなみに小浜市のそれは1%。(いずれも2017年度)「原発ゼロ法案」第九条では「新たな産業の創出、電気事業者の事業の継続等により、原子力発電所等の周辺の地域の経済の振興振興策及び雇用の確保を図るものとする。」と約束している！
- ・名古屋地裁は廃炉を促す判決を！

・関西電の顧客(消費者)は、再稼働・延命に固執するなら関西電からの離脱(新電力会社へ契約の切り替え)を、廃炉を決断するなら関西電の支援を！

・岩根茂樹関西電社長 (In)

fax

)へ直訴・電話・

ハガキ(手紙)・メール・フaxesなどで要請を！